

スクール ミッション	社会に役立つ女性の育成 ・多様化する現代社会を自分らしく生きる女性の育成 ・地域社会と協働できる自立した女性の育成.
教育方針	私学は、建学の精神に則り、常に最先端の教育を行わなければならない。 校訓である「誠実・協和・勤勉」の教えに従い、常に誠実な姿勢、協和を尊ぶ心、何事にも勤勉な態度を身を以て実現し、それを生徒達に還元すること。 生徒・保護者には誠実に対応し、教育者としての尊厳を保ち、何事にも決して安易に妥協しないこと。
重点目標	新学習指導要領の主旨を十分に理解し教育内容の更新に専念する。 キャリアデザインにおけるプロジェクト学習の推進に努める。 成年年齢に達した生徒に対する支援と指導について確立する。 授業におけるICTの利活用に積極的に取り組む。

校務分掌	重点目標	重点目標に対する方策	評価	総合 評価	今後の課題
普通科	CAREER HANDBOOKを活用し、自己管理能力を高めさせる。	キャリアデザイン授業での指導、週1回の提出のほか、HRや他の教科での活用を促す。	B	A	手帳の活用について、積極的に活用している生徒と、そうでない生徒の差が大きい。1年生は週1度の提出をさせているが、2・3年生は生徒任せである。生徒に一斉に使わせる機会を創出してもよいのかもしれない。 五軒小学校開放学級（学童保育）を補助するボランティアを復活させたい。 新課程生の調査書について、教員が活動を記載する欄がきわめて小さくなる。生徒は、行った活動を自ら報告書に記載することになるため、生徒が情報を蓄積できるよう配慮する必要がある。
	生徒が地域社会で活動する機会を増やし、キャリアを考えるきっかけや材料となるようにする。	多くのボランティアを紹介したり、セルフ型インターンシップなどへの取り組みを促す。オンラインでの活動も模索する。	A		
	キャリアデザイン科との情報共有をさらに進め、生徒の成長や進路決定につなげる。	クラス担任がキャリアデザイン科の取り組みを把握し、進路選択に向けての生徒への声かけや、調査書・推薦書の内容充実に活かせるようにする。	A		
家政科	専門的な知識と技術を生かし、地域社会に貢献できる人材を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・検定の課題と評価について教員間で共有し研鑽を積む。生徒個人の能力に合わせ、実技等において補習授業などを行う。 ・実習では、事故防止の指導を徹底し、安全と衛生に十分留意する。 ・専門家の授業を受けさせることで、高度な技術を身につけさせ、各分野のスペシャリストを養成する。 ・コンテスト等への応募を推進し、生徒の意欲を育成する。 	A	A	検定について、生徒の個人差が大きいため、引き続きそれぞれに応じた指導をしていく。また、実習では衛生管理を徹底し、事故防止や感染症予防に取り組んでいく。 コンテスト応募では、随時生徒へアナウンスをし応募を促した。今後も積極的にコンテスト等に応募するよう、生徒たちへ声かけをしていく。 昨年度同様、株式会社アダストリアとの環境活動を行った。今年度は生徒と店舗へ向きリサイクルに参加するなど、地域企業と連携をしながら環境問題について学ぶことができた。今後も株式会社アダストリアとの環境活動を継続して行い、服育を通じて地域との連携を強化していく。 今年度、水戸市社会福祉協議会内の知的障害者就労支援施設で栽培した野菜を購入し実習に活用し、さらに、学校家庭クラブ活動で行った募金活動で集まったお金の寄付を行い、地域福祉と連携をとることができた。来年度も地域社会や地域福祉の様々な分野で連携を図っていきたい。
	他者と協働しながら自ら考え行動し、社会に適応することが出来る力を養う。	株式会社アダストリアの環境活動に参加し、服育を通じて地域との連携を強化する。	A		
		地域との協働により、社会に適応できる力を身につけさせる。	A		
		地域共生社会実現に向け、学校家庭クラブ活動を通して水戸市社会福祉協議会との連携を強化し、活動の様子を外部へ発信する。	A		
看護科 (高校)	人々の健康を守ることへの誇りと自信を持ち学びに向かう力を持つ生徒を育成する	ICTを活用した学習習慣の定着を図る ・Classi・スクールワークによる課題・振り返り 朝学習、家庭学習時間の確保 新学習指導要領の実現	A	A	ICTの活用を授業だけでなく看護科の行事(国家試験激励会など)にも活用して行うことができた。さらにICTだけでなく協同学習としてペアワークを積極的に取り入れiPadによる動画撮影による振り返りを視点を持って取り組ませることを進めていきたい。また家庭学習時間の確認をし学習習慣が定着できるよう引き続き指導する。 1年生1名転学1名転科、2年生2名転学2名転科、3年生1名専攻科進級辞退の進路変更者がいるが一人ひとりを尊重した進路指導の結果と考える。来年度も生徒との対話を重ねよりよい進路実現に向けて指導を行う。またベネッセの学力テスト、診断を活用、悩みに対して赤印のある生徒への学科内共有と声かけ、教員間での会議内での連携の強化を図る。
	看護師になるという目標をもち一人ひとりを尊重し共に学ぶ態度を養う	一人ひとりを尊重した進路指導を行う ・家庭とClassi、電話を利用した連携 ・毎日の繰り返した生活指導 ・教育相談の活用	A		
看護科 (専攻科)	看護教育を通して望ましい看護観及び倫理観を育み5年間で看護師国家試験受験資格を取得できる	2022年度修了生全員の看護師国家試験合格 ・過去問題5年分の完全実施(学習アプリの活用) ・成績低迷者への面談・個別指導 ・各教員への振り分け指導 ・グループ学習の促進 ・各模擬試験の振り返りと弱点診断	B	A	合格率 97.4 %となり個別指導の強化が必要である。早期から成績低迷者に対しては学習を確実なものとなるよう国家試験に向けた授業の振り分けだけでなく担当教員制を検討し年間を通して指導できる体制をとる。担任が中心になるものも学科でも振り分ける。また低学年からのアプリの活用を進める。

	生涯にわたって看護を能動的に学び、専門性を高めることにより地域医療に貢献する生徒を育成する	地域に貢献する看護師の養成 ・県内就職率90%以上、内80%以上は実習病院への就職 ・病院説明会の実施	A		今年度は県内就職92%うち実習施設97%、進学者3名と目標達成できた。早期から目標を定め計画的に活動ができるよう促していく。
教務部	本校グランドデザインを基に、教育活動および校務の円滑な運営を目指す。	・単位時数に見合う授業時数を90%確保する。 ・行事の特定日への偏りを100%解消する。 ・行事日程、展開場所などの重複防止を100%にする。 ・試験日程2週間前発表実施 100%	A	A	・実施願いの提出が行事実施日の前日または当日ということが数件あった。次年度は実施願の早期提出を実現したい。 ・スクールマスターの使い方について、だいぶ浸透しているようだ。年度更新の方法や、初期設定ができる教員を増やしたい。
		・次年度選択授業の確定2月末まで ・教員研修の実施 年2回 ・次年度の準備終了 3月31日	A		
		・スクールマスターの使い方を周知させる ・各種用品・消耗品等の節約 ・会議資料のPDF化で用紙代を節約する ・保護者あて文書の印刷物配布かClassiでの配信かの区別をする	B		
学習指導部	新課程移行とICT活用に合わせて「一斉講義型」の授業から、授業時間の多くを実習やディスカッション、生徒による表現活動など「現場で活動しなければ得られない価値」を提供する授業を目指す。	1. 各教科の研究授業を実施（キャリア・礼法除く）する。 2. 授業見学を実施する。 3. ICT活用に関する研修を実施する。主にOJTで実施。 4. 教科ごとの研修会を実施する。	B	B	非常勤の先生を中心にICT活用をさらに推進する必要がある。また、研究授業は外国語科、数学科、体育科、地歴科が実施。全教科での実施を徹底する必要がある。授業見学も随時、遠慮なく行えるようにする必要があると感じる。 10月実施基礎力診断テスト（3学年とも受験）では、D3/1年普通科10名・家政科10名・看護科0名・2年普通科11名・家政科1名・看護科0名・3年普通科16名・家政科6名・看護科2名だった。目標を達成した学科もあるが、入学生の学力の低下が感じられる。1年次の学習習慣の徹底を図るとともに部活動と両立させるための方法を考え、部顧問にも協力してもらう必要があると感じる。 各学年B1以上の生徒は基礎力診断テストでは10名～15名だが、進研模試では0～3名である。キャリア特別進学コース（クラス）のシラバスを工夫し、年度の後半は演習を中心に行うなどが必要である。また、成績上位層に合わせた授業の展開も必須である。
	低学力層の底上げを目指す。（ベネッセアセスメント国数英3教科・国語・数学・英語を指標とする） ① D3ランク生徒人数を各学年、普通科各5名以下、家政科3名以下・看護科0名とする。 ② Dランク生徒人数を各学年、普通科各25名以下、家政科10名以下・看護科5名以下とする。	自発的な学習を促すため、 1. 部顧問からの声かけを徹底する。 2. 定期試験の再試験制度の導入を検討する。 3. ベネッセアセスメントに対する事前事後指導をベネッセが配信している課題などを利用し、徹底する。 4. D3学習会を実施する。	A		
	進路実績向上のために、ベネッセアセスメントB1以上（国公立大学可能レベル）生徒人数を各学年、普通科5名以上を目指す。	1. ベネッセアセスメント年間全てAの生徒を表彰するシステムを正式に導入する。 2. 模擬試験の事前事後指導の徹底を図る。 3. 部顧問と連携し、声かけ、成績特待生・奨学生の成績提供、学習時間確保の依頼などを行う。	B		
入試広報部	本校に足を運んでもらう機会を拡大する。	・本校のイメージ向上と教育内容の理解を広げる。	A	A	体験学習や入試説明会の実施回数を多く実施することができた。来校者数を増やすことが課題である。 受験者数の伸び悩んでいた地域や従来受験者が望めなかった地域からの受験者が得られるようになった。さらに増加させていくことが今後の取り組みの中心になる。 家政科・看護科は差別化されており特徴がきちんと広報できている。普通科の教育内容の工夫と広報が必要である。
	各学校に加え、各塾への広報をさらに積極的に行い、生徒確保に努める。	・在籍生徒数の多い塾を中心に訪問対象塾にする。	A		
	各教科指導の具体的なiPad活用方法など特長を広く広報する。	・より多くの説明会に参加し、積極的に広報する。 ・普通科・家政科・看護科の3学科の特性をさらに広範囲（より広い地域）に広報する。	A		
厚生部	新型コロナウイルス感染拡大防止対策に務める。生徒の健康の保持増進を図る。職員の健康診断について結果の改善に努める。	・手洗い、マスク着用、検温、換気を徹底させる。 ・その他新型コロナウイルス感染症についての情報を発信し、注意喚起を促す。 ・生徒の検診結果を通知文等を利用し、保護者に知らせる。またClassiを利用し生徒の病院受診、治療を勧める。 ・「well being」（保健日より教員版）を年2回発行し、職員の健康に関する情報を伝える。	B	B	今年度も生徒、職員の協力により、手洗い、マスク着用、換気など新型コロナウイルス感染拡大防止対策を実施することができた。委員会の生徒たちは、感染防止対策をとりながら保健、美化活動を行うことができた。今後は、通常の学校生活に向けて新しい情報を収集しながら、充実した保健、美化活動について指導していきたい。
	学校生活の環境を整える。	・年2回、廊下、階段のワックス掛けを委員会で行う。 ・節電に努める。節電に協力してもらえるように保健便りやClassi等を利用し呼びかける。 ・清掃時のチェック表を配布する。毎日の清掃を通して、校内の美化に努める。	B		
特別活動部	1. ホームルーム活動を通して、多様化する社会に貢献できる自立した女性の育成を目標に自主的な態度や健全な生活態度を育てる。	① HRや全校集会を生徒の自発的活動の場とし、年に1人1回はみんなの前で発表する。 ② 奉仕活動の意義を理解させ50%以上の生徒をボランティア活動に参加させる。呼びかけ運動実施・企画決定	B	B	① 吹奏楽部・運動部の大会の結果と共に、大会の様子を全校生徒に見せることができた。他の部活の活躍も披露できるようにしたい。今後、コロナが落ち着く中で、全校集会の方法・内容が課題である。 ② 生徒会を中心に全校生徒をボランティア活動に参加させ、スポーツボランティア同好会を作りたい。
	2. 学校行事を通して、望ましい人間関係を形成し集団への所属感や連帯感を深め、協和を尊ぶ心を養い、協力してよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。	① 撫子祭ではクラスの団結を強め、また地域との交流を深められるような内容を企画する。 ② 学校行事や撫子祭では生徒の自主性・協調性を養わせ、アンケート調査を実施し連帯感が深められたかを評価し、満足度を80%以上にする。	A		

	<p>3. 部活動を通して、良識ある人間として地域社会に融和できる女性を目指すための能力を養う。</p>	<p>① 生徒が部活動の充実と発展に努め、積極的に参加し入部加入率を75%以上にする。 ② 部活動を通して地域社会に融和することや、貢献できるように各部で活動計画を立てる。</p>	B	<p>部活動入部率は58%であった。75%まで引き上げるために、生徒会を中心とした活動の様子の発信を多くしていくことが今後の課題である。</p>
	<p>4. ipad他の通信機器を行事等で活用する方法を実践しながら模索する。</p>	<p>・ 行事の中で、動画の活用や、YOUTUBEなどを用いての実況中継の方法・ルールを模索する。</p>	A	<p>撫子祭などでアンケートの投票などはiPadを用いて行った。ダンス発表なども動画で行って、賛否があったので、来年度の検討事項である。</p>
進路指導部	<p>・ 生徒が自分の将来の希望を実現するのに適した上級学校を選択し、入学できるよう援助する。 ・ 進路未定のまま卒業する者0名、普通科の大学・短期大学進学者60%(57名)以上、普通科・家政科の茨城女子短期大学進学者20%(26名)以上。国公立大学進学者3名以上、私立高校経常費補助金特別加算に該当する大学への進学者1名以上。</p>	<p>・ 校外の相談会や上級学校のオープンキャンパスを告知し、生徒の積極的な参加を促す。 ・ 進路資料室や校内掲示板を充実させ、生徒が情報収集しやすい環境をつくる。 ・ 入試制度や修学支援制度の最新の情報を、生徒・保護者にわかりやすく伝える。 ・ HR等での活動を通して生徒に自身の適性を認識させ、受験校選択におけるミスマッチを防ぐ。</p>	B	<p>進路未定卒業 2名 普通科の大学・短大進学者 47名 普通科・家政科の茨城女子短期大学進学者 17名 国公立大学進学者 3名 特別加算該当大学進学者 1名</p> <p>専門学校希望者が多かった。PRの上手な学校に引きつけられた印象もある。これまで、広範な情報を提供する目的で進路ガイダンスに多くの専門学校を招いていたが、ある程度精査して学校数を絞ったほうがよい。</p>
	<p>生徒が自分の希望する職種や職場を選択し、就職できるよう援助する。 就職希望者全員が内定（正規雇用）。</p>	<p>・ ハローワークと連携し、生徒の希望に応じた就職先を紹介する。 ・ 課外授業やHR等での活動を通して、生徒に自身の適性を認識させ、職業選択におけるミスマッチを防ぐ。 ・ 課外授業を通して、履歴書の作成や面接・適性検査への対策を行う。</p>	A	A
	<p>生徒・保護者との情報共有や、生徒の進路に対する意識向上、生徒の進路決定のために、ICTを積極的に活用する。</p>	<p>・ Classiの校内グループを通じて、生徒・保護者に情報提供を行う。 ・ Classiのアンケート機能を用いて、キャリアパスポートを運用する。 ・ ZoomやTeams等を使つてのガイダンスや、オンライン面接の対策を実施する。</p>	A	<p>当初からの就職希望者10名は全員内定。 進路未定者1名が就職できるようマッチングを試み、企業からはよい返事を得ていたが、音楽活動に注力したいとの理由で最終的に希望を取り下げた。社会が多様化する中で、進学/就職 以外の進路希望が生徒から出された場合（起業とかも）どのように指導すべきか、今後検討していく必要がある。</p>
生徒指導部	<p>1. 基本的な生活習慣の育成 ・ カリキュラム・ポリシーに採用されている小笠原流弓馬術礼法に則った挨拶・言葉遣いの徹底を図る ・ 正しい学習態度を身につけさせる ・ 正しい制服の着用及び容姿を整えさせることに務める</p>	<p>・ 教員全体による立哨指導で注意喚起を徹底する。 ・ 校内巡視を定期的に行うことにより指導する。またその際コロナ禍なので、黙食の励行を併せて指導する。 ・ 授業開始・終了時に小笠原流弓馬術礼法に則った挨拶を各教員が指示する。 ・ オール大成で校外外において、制服の乱れた生徒を見かけたら、躊躇せず言葉をかけて直させる。 ・ 授業妨害及びこれに準ずる行為は、全員が毅然とした態度で臨む。 ・ 特に3年生には成人年齢に達した生徒がいるので、本校での躰が完成した形に導いていく</p>	A	<p>特に校内・外でも服装が特別酷く乱れていた生徒はいなかったようである。しかし年間を通して、スカート丈が短く目立った生徒がいたので、担任レベルでの指導をすることにより他の教員からの指導も受け入れると思うので、次年度は靴下同様その点を徹底することを課題とする。またコロナに関しては終息する兆しが見え隠れしているが、マスク着用同様昼食時の黙食を考えている。</p>
	<p>2. 情報モラルの育成 ・ SNS関連のトラブルの発生を防止する。</p>	<p>・ 情報科の授業だけでなく、関連するすべての授業を通して情報モラル向上を図るための指導を行う。 ・ 危機意識の向上を促進するために、茨城県メディア指導員及び警察署職員による講話を行ってもらうことにより注意喚起をしていく。 ・ HR指導さらには様々な日常の活動を通して、コミュニケーション能力の向上と他者への思いやりの心を育ませる。</p>	A	A
	<p>3. 教員相互の連携を図り指導にあたる ・ 学年間の連携にとどまらず、学年の垣根を越えた教員相互の密接な関係構築によるスムーズな指導。</p>	<p>・ 生徒指導会議を学年末に開催し、情報の共有を図り、ひいては教師間での指導の格差是正につなげる。</p>	A	<p>毎日の学年主任との立哨指導での会話により情報共有・連携は学年とは図られている。3月まで情報の共有を年度当初と同じように保つ前年度の課題はほぼ保たれたと感じる。そこで次年度は、年代の垣根を越えた情報の共有に力点をおきたい。</p>

メディア統括部	<p>グラウンドデザインを基に「元気で活発な学校」「きめ細かい指導をする学校」「特色のある学校」というイメージをつくり、在校生・保護者・中学生・地域・同窓生等に広く伝え、受験者増、入学者増、学校の評価の向上に繋げる。</p> <p>学習指導部と連携して、リモート授業に対応できる環境と教職員のスキルの充実を図る。</p>	<p>学校案内や情報誌「ToSay!」、懸垂幕などのアナログ媒体と合わせて、ブログおよびSNSなどのデジタル媒体からも積極的にPR活動を行う。</p> <p>高校WEBサイト内の掲載内容を充実させる。</p> <p>教職員及び生徒がICTの利活用に積極的に取り組めるように、生徒用学校指定iPad、職員用PCおよびiPadの活用方法を教化する。</p>	A	A	<p>本校WEBサイトでの最新情報の発信とともに、新パンフレットに合わせてリニューアルができた。ブログの更新、懸垂幕による情報発信も可能な限り最新情報を掲載することができた。次年度も継続して最新情報を更新していくのが課題となる。双方向通信やオンラインライブなど、メディアを活用する方法も日常化してきているので、今後は状況に合わせて臨機応変に対応できる職員のスキル向上が課題となる。</p>
図書館部	<p>蔵書を充実させ、学習センターとしての役割を果たすことで、生徒が「自ら学ぶ」主体的な学習展開を可能にする。</p> <p>生徒図書委員会の運営を充実・発展させ、活発な活動を継続する。</p> <p>図書館管理システム「Enju」を活用して、書籍の管理と業務の更なる効率化を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒や職員が利用しやすい環境づくりを行い、利用者を増やす。 ・スクールミッション、スクールポリシーに沿い、良書を選書して提供する。 ・生徒の学力や精神的な豊かさの向上につながり、教養を深められるような環境を作る。 ・生徒が気軽に図書館を利用し、学習や読書、調べ学習などが活発化するよう支援する。 ・委員各自が運営方針に沿って活動できるようサポートをする。 ・図書委員をオンラインによる他校との研修を行う。 ・選書会議（生徒・職員による）を行い、図書費の有効活用を図る。 ・Enjuによる管理システムを活用して利便性を図り、生徒や教員の利用促進につなげる。 ・司書の業務の効率化を図ることで、図書の受け入れ・登録・廃棄作業の時短化を進め、レファレンスの充実を目指す。 	A	A	<p>各教科や進路指導部との連携を図り、生徒の学習に役立つ蔵書選定を行うことで、学習や読書に適した環境を整えることができた。次年度も各教科や分掌との連携を図って運営を行う。</p> <p>委員会を計画通り運営し、充実した活動ができた。今年度はオンライン研修会に参加したが、次年度は対面での研修に参加させ、活動の活発化につなげたい。</p> <p>Enju導入が完了せず、利便性の向上という目標を達成できていない。実質的作業を行う司書の研修を充実させ、システム移行を行うことが喫緊の課題である。</p>
1学年	<p>「多様化する現代社会を自分らしく生きる」ために、基本的な生活習慣を身につけさせ、規律ある生活をさせる。</p> <p>「地域社会と協働できる自立した女性の育成」を目指し、豊かな人間関係を構築させ、他者と協働し最善を尽くすことで自立心や思いやりの心を育てる。</p> <p>「多様化する現代社会を自分らしく生きる」ための能力を育てるために、主体的に学ぶ姿勢と、様々な「挑戦」や「貢献」に必要な学力を養成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小笠原流礼法を習得させ、心のこもった挨拶や場面に合わせた言葉遣いを身につけ、正しいコミュニケーションがとれるよう指導する。 ・校則を正しく理解させるために、学年の共通理解のもとで丁寧な指導する。 ・規範を守る必要性を理解させ、安易な欠席、遅刻、早退を減らすように健康管理に留意させる。 ・公共の場においてマナーやルールを正しく理解させ、日頃から規範意識を高めさせる。 ・主体的な学習態度を育成し、進路実現に向けての学習習慣を定着させる。 ・家庭学習を習慣化させ、ベネッセアセスメントの学習到達ゾーン(GTZ)D3段階の生徒を5名以内、国語、英単語テストの年間成績優秀者を学年の40%以上にする。 ・定期的な面談などを通し、生徒の家庭環境の把握に努めるとともに、生活の乱れや心理的な変化に迅速に対処する。 ・保護者とのコミュニケーションを密にし、共通理解と協力を得ながら生徒の育成に携わる。 ・保護者とのコミュニケーションを密にし、共通理解と協力を得ながら生徒の育成に携わる。 ・コロナ禍における自己の行動に責任を持たせ、感染予防を徹底させる。 ・他者との関わり合いの中で、自分を知り、相手の考えを理解し尊重できる心を育てる。 ・遠足、スポーツフェスティバル、撫子祭などの学校行事を通して、他者との関わり合いの中で人をいたわり思いやる心を育てる。 ・生徒会、部活動、委員会活動等を通して、与えられた役割を確実に取り組ませ、組織の一員としての自覚を持たせる。キャリアパスポートを活用し定期的な振り返りをさせる。 ・情報リテラシーを養わせ、コミュニケーションスキルを向上させる。 ・進路説明会やガイダンスを通じて、自己の適性や学問領域、職業に対する理解などを深めさせ、進路選択のために必要な学力を向上させ、メディアリテラシーを養わせる。 ・ベネッセアセスメントのD3段階の生徒をなくし、国語テスト・英単語テストの年間成績優秀者を学年人数の40%(155人)以上になるように、家庭学習の徹底を図る。 ・各種検定試験や校外模擬試験を積極的に受験させ、自己の学力を客観的に知ることで、学習意欲の向上につなげる。 ・コロナ禍における自己の行動に責任を持たせ、感染拡大防止に努めさせる。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・小笠原流礼法を学んだ。今後の学校生活でも、正しい立ち振る舞いを実行できるよう指導する。 ・校則を正しく理解するよう、節目節目で説明してきた。これからの学校生活においても、校則を正しく理解できるよう継続して働きかける。 ・ベネッセアセスメントの学習到達ゾーン(GTZ)は1月実施の試験で29名(1科目でも該当する者)であった。次年度は20名以内になるよう働きかける。 ・国語テストの成績優良者は26.9%、英単語テストは24.1%であった。次年度は30%以上になるよう指導する。 ・必要に応じて面談を実施している。生徒の生活態度の変化に注意を払い、生活に乱れがあった時などは、迅速に対処して行く。 ・保護者とのコミュニケーションを密にとり、共通理解のもと生徒の育成に携わる。 ・コロナ禍において、自己の行動に責任を持たせ、感染予防を徹底させる。 ・遠足、スポーツフェスティバル、撫子祭を実施することができた。今後も他者との関わりを大切にしよう働きかける。 ・生徒会、部活動、委員会活動を通して、与えられた役割を確実に取り組ませ、組織の一員として自覚を持たせる。 ・情報リテラシーを養わせ、コミュニケーションスキルを向上させる。 ・生徒との面談を通し、生徒の状況把握に努めている。 ・感染対策防止のため日々の体調調査の inputs を促し、特に休日の入力状況が悪いので徹底させたい。 ・学年末の成績優良者数は普通科54名(51%) 家政科は17名(46%) 看護科は24名(52%)。また英単語テスト40名(189名) 21%、国語テスト30名(189名)16%。成績下位層の学習習慣を定着させたい。 ・修学旅行、スポーツフェスティバル、ダンス発表会、校外ホームルーム(倍楽園)、進路ガイダンス等を実施することができた。

2学年	<p>「地域社会と協働できる自立した女性の育成」を目指して、他者との関係の中で自己を成長させ、体験的な学習活動を通じて社会性を育てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小笠原流礼法の学びを意識して行動させることにより、豊かな人間性とコミュニケーション力を身につけさせる。 ・スポーツフェスティバル、撫子祭、修学旅行などの学校行事に主体的に取り組ませることで、連帯感や達成感を体得させる。 ・生徒会や部活動、委員会活動などを通して、積極的に周囲とのコミュニケーションを図り、自己の役割を全うさせることで、実行力と責任感を養う。 ・基本的な生活習慣を整えさせ、定着させることで、安易な遅刻や早退をなくす。 ・生活の乱れや心理的不安に起因する生徒の言動に対しては、迅速に保護者と連携し、丁寧に対応する。 ・校則の周知徹底を図り、違反した者については学年全体で丁寧な個別指導を行い、誓約書を伴う指導を減らす。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・大きく生活の乱れが見られた者はいなかったがピアス・染色で同一生徒が誓約書を2枚提出している。校則等の規則の遵守を継続的に促していきたい。特にスカート丈の指導が課題である。
	<p>「多様化する現代社会を自分らしく生きる」ために、主体的に行動させ、自己を実現させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的な学習態度を育成し、学力の向上を図り、進路決定を実現させる。 ・ベネッセアセスメントの学習到達ゾーン(GTZ)のDゾーンの生徒をなくし、Cゾーンへの底上げを図る。 ・国語テスト・英単語テストの年間成績優秀者数を学年在籍数の40% (約60名) を目指す。 ・遠足、スポーツフェスティバル、撫子祭などの学校行事への参加を通して、連帯感や達成感を体得させる。 ・生徒会、部活動、委員会活動などで、後輩を指導することにより、責任感を養わせる。 ・挨拶・言葉遣い・時間の遵守・清掃を丁寧に行うなど、身に付けた基本的な生活習慣を実生活に活かせるように指導する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・進路実現に向けて主体的に学習する姿が見られ、個々の進路に対する目標を実現することができた。 ・ベネッセアセスメントの学習到達ゾーン(GTZ)のDゾーンからCゾーンへ移行した生徒は多く、学習指導部主導の学習会の効果が高かったと思われる。 ・国語テスト・英単語テストの年間成績優秀者数は、卒業生170名中、国語テストが31名、英単語テストが21名であり、該当者は体調管理とともに、意欲を持って学習をした結果である。 ・横浜方面への遠足、スポーツフェスティバル、撫子祭などの行事において、欠席者は5%程度とほとんどの生徒が参加し、充実した活動を行うことができた。 ・生徒会、部活動、委員会活動では最高学年としての責任ある行動を取ることができた。 ・挨拶・言葉遣い・時間の厳守は進路決定に向けた活動を通して培うことができた。清掃においても生徒自身が進んで行うことができた。
3学年	<p>「地域社会と協働できる自立した女性の育成」を目指し、集団生活の中で規律ある態度を養い、心豊かな人間性を育む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「小笠原流礼法」を身につけさせ、自立した女性になるために大切な立ち振る舞いを、実生活に活かせるように指導する。 ・他者との関係の中で自己を成長させ、自立心や相手を思いやることのできる心を育てる。 ・校則に違反した生徒に対しては、丁寧な個別指導をする。 ・制服を正しく着用し、身だしなみを整えるよう、学年の共通理解のもとに指導を行う。 ・朝学習の内容を学年全体で常に見直ししながら、生徒が継続して学習できるようサポートする。 ・欠席や遅刻の多い生徒、生活の乱れが目立つ生徒には、保護者と連携してその対応をする。 ・ホームルーム活動や学校行事等を通して、協調性や他者の考えを尊重する態度を養う。 ・生徒が主体性を持って活動できるよう、学級活動や授業等を通して情報リテラシーを養わせる。 ・生徒の情報活用能力を育成するため、ICTを効果的に活用した教育活動を行う。 ・進路指導部と連携して、進路に関する最新情報の入手に努め、生徒に情報を提供する。 ・推薦、総合型選抜方式の入試や、就職試験の対策の一貫として、面接練習を学年の教員全員で行う。 ・各種検定試験や校外模擬試験の受験を促し、自己の学力を客観的に見ることで、学習意欲を向上させる。 ・成人年齢の引き下げに伴う自己の置かれた環境の変化を理解させ、責任と義務を自覚して行動させる。 ・公共の場においてマナーやルールを守って行動できるよう、日頃から規範意識を高めさせる。 ・コロナ禍における自己の行動に責任を持たせ、感染拡大防止に努めさせる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・最高学年として率先して行動させ、係や委員会、部活動においても、必要な仕事に取り組みることができた。自己の役割を果たし、リーダーシップを発揮できた者も多く、学校生活を充実させることに繋がった様子である。 ・進路決定への意識や緊張感が校則の遵守に繋がりを、生徒指導の対象となるものはほとんどいなかった。服装などの軽微な違反者や、生活面に懸念のある生徒に対しては、その都度丁寧な声かけや指導を心がけ、保護者とのコミュニケーションを密にしたことで、大きな問題には至らずに済んだ。 ・進路指導部や学習指導部との緊密な連携が、生徒の進路決定に効果を生み、ほぼ全員の生徒が進路決定をすることができた。3年間の計画的な学習の成果として、国公立大学合格者を輩出できた。 ・新型コロナの影響で、直接対面した進路指導や学習指導ができない場合だけでなく、ほとんどの生徒に対してteamsを利用してオンライン指導を活用した。利便性も高く、履歴が確認できる点が非常に良い。より良い利用法を探求し、教員間で共有できるようにしたい。
国語	<p>基礎的な学力を充実させ、表現力や理解力を養わせる</p>	<p>授業を通して、「読むこと」に加えて「話すこと・聞くこと」「書くこと」の学習活動を活発化させるために、ICT機器を利用した課題の添削や発表等を増やす。</p>	A	<p>動画等で作品のイメージを持たせたり、事前に準備した板書内容をTeamsで共有したり、感想や意見をオンラインで事前に提出させた上で授業内で発表をさせるなど、効率的で生徒の学習状況が双方に見えやすい環境を作ることができた。さらに活用方法の探求を続ける。</p>
	<p>生徒の学力にあった系統的な指導をする。</p>	<p>単元ごとの理解度を測るために、学習課題の提出に加えてWebテスト等を活用するなどして、コースや個々のレベルに合った指導を行う。</p>	A	<p>各学科やコースの特性に合わせて、課題の提出方法を変え、個人のレベルに合わせて指導することができた。</p>

	進学・就職の目標を達成させるため、国語テスト等の学習を通して国語力の向上を図る。	国語テスト等の継続的学習が、検定合格や入学試験対策につながるように指導する。自学自習を習慣化させることで、基礎学力の向上を図る。	A		月例テストや学習教材を活用した小テストなどの短期目標への取り組みを継続し、目標とする検定の合格や、入社試験、入学試験において、結果につなげることができた。
地歴	時代の流れ・各時代の重要な出来事・重要人物について知る。また、地図を通して基本的な地理的な見方や考え方を身につける。iPad等の情報通信機器を授業中に活用し、効率的な授業展開や生徒の情報活用能力の向上を図る。	ワーク・問題集を購入し、分野別に確認テストを実施する。また、DVD映像などの視聴覚教材を利用し知識の定着を図る。iPad等情報通信機器を活用した授業を研究し、使用方法について、社会科研修などを通じて、地歴科の中での共有を図る。	A	A	年間を通して、ワークをこまめに使用しながら学習することができた。iPad等の情報通信機器を活用した授業も定着している。次年度は新しい学習指導要領に則ったシラバス通りに授業を進められるよう取り組みたい。
公民	政治的分野・経済的分野・倫理的分野の基礎用語の意味を理解させ、身近な社会との関係について知る。iPad等の情報通信機器を授業中に活用し、効率的な授業展開や生徒の情報活用能力の向上を図る。	ワーク・問題集を購入し、分野別に確認テストを実施する。また、新聞を活用し、時事問題などを取り上げて知識の定着を図る。iPad等情報通信機器を活用した授業を研究し、使用方法について、社会科研修などを通じて、地歴科の中での共有を図る。	A	A	
数学	学習習慣を定着させる。	課題をTeams等で配信をし、家庭学習を行うように促す。課題が進んでいない生徒へは担任とともに声かけを行う。D3の生徒がいなくなるよう、基礎力の定着を図る。	B		D3の生徒がいなくなるために、中学校範囲を含めた基本事項の定着および計算力の正確さとスピードを養うことが求められる。年間の授業の深度を維持しつつ、復習の時間を確保する授業展開が求められる。
	基礎学力の向上を図る。	1年普通科は習熟度別でグループの学力に合わせた授業を行う。学習の理解度を把握し、個々に応じて指導を行い、学習支援センターの利用を促す。Teamsで生徒の苦手とする分野の課題を配信する。	A	B	習熟度別での展開により、上位者はより発展的な内容を学習し成績を伸ばすことで進路実現につながるような展開が必要となる。また、下位者は学習習慣の定着と同様であるが、復習と反復を重視し、「わかる」だけでなく「できる」を実感できるような内容を精査していく必要がある。
理科	「一斉講義型の授業」から、授業時間の多くを実験やディスカッション、探究・発表など「現場で活動しなければ得られない価値」を提供する授業を目指す。	1. 教員間での情報交換の充実を図る。 2. 新学習指導要領に合わせた指導方法・評価方法の研究を行う。 3. ICT教材などを活用することで、板書する時間を減らし、生徒自身が考え、活動する時間を増やす。	A	A	実験やグループ活動、発表等の時間を増やすことができた。新学習指導要領に合わせた単元ごとの指導方法・評価方法の改善と研究を行うことが必要である。
保健体育	体力の向上をはかり、公正、協力、責任などの態度を身につけさせる。社会に役立つ女性になるべく、社会生活における健康、安全に理解を深め、自らの健康を適切に管理し改善していくための資質や能力を身につける。	個々の運動能力に合わせ到達技能を設定し、タブレットを活用して全員がクリアできるように指導する。	A	A	コロナ禍の影響で、全体的に運動する習慣がなくなっているのが、生徒の運動能力が低くなっているように感じる。できる生徒と全くできない生徒の二極化が顕著になっている。これをどのように解決するかが、今後の課題である。
		種目の選択とともに、グループを編成し個々の役割を実践させる。	A		できる生徒と全くできない生徒の二極化により、できる生徒をリーダーにして授業を展開することが以前に比べて難しくなっている。
芸術	各教科において、基礎的・基本的な知識や技能の習得を図り、主体的に表現活動に取り組みさせる。	・基礎的な演奏法や表現技法を習得させ、鑑賞能力を養うことで、自己の表現・創作活動への意欲を高めさせる。(音楽・美術・書道) ・鑑賞の幅を広げたり、生徒の表現活動の手段にしたり、実技指導の充実を図ったりするために、ICT機器を利活用する。	A	A	ICT機器を利用することで、各科目の鑑賞の幅を広げることができた。外部団体や施設とオンラインで繋ぎ、楽器演奏や鑑賞の分野において知識を増やしたり、現地に赴いて直接鑑賞することができた。今後も継続すべきである。
	音楽・美術・書道に親しむ活動を通して感性を豊かにし、自己を表現するための基本的能力を伸ばす。	・文化祭などの学校行事における発表や、校外の展覧会への出品を通して、表現活動に挑戦させる機会を積極的に設ける。	B		授業内での発表の機会はあるが、文化祭での校内展示、外部コンクール等への出品はなかった。機会を増やすことが取り組みへの意欲に繋がることもあるため、次年度は挑戦したい。
外国語	ライティング力を中心に英語表現力向上を、iPadなどICTの活用を通して図る	日記活動による「書くこと」の継続的指導をする。	A		1年間、日記の添削活動を継続できた。教員への負担を減らす方法を工夫する必要がある。
	従来の教材利用をもとに、指導内容や使用教材を再検討し、基礎力の充実を目的に語彙力の向上を図る	校内一斉英単語テストに加え、コースの特性や生徒の希望進路に合わせた語彙指導を実施する。	A	A	校内一斉英単語テストを基本に、コース別の教材利用など効果的な指導が行えた。更なる学力向上を図っていく。
	iPadの活用を伴う英語による授業展開方法と方法の研究開発を継続する。	英語で展開する英語授業の実践とiPadを活用した授業展開の研究を継続する。	A		iPadの利用は充実してきている。今後は学力向上に効果的な利用方法の検討が課題である。
家庭	「フードデザインコース」「ファッションデザインコース」の各コースにおいて、職業人としての知識・技能を習得させ深く学べる教育活動を展開する。	ICTを効果的に活用し、生徒の能力に応じた教材等を探究する。生徒一人一人の課題を把握し、多様な能力・適正、興味関心などに応じて指導助言する。基礎学力の向上と、実技における基礎・基本の定着させる。	A	A	生徒の能力に応じた教材等を探究し、ICTも活用しながら授業を行った。来年度は、さらにICTを活用し、情報活用能力を身につけさせたい。また、生徒自身の課題について、随時指導助言を行う。
	専門的な技能を習得し、地域社会において主体的に貢献できる人材を育成する。	プロフェッショナルの講師の授業を受けさせることで、高度な技術を身につけさせ、各分野のスペシャリストを養成する。生徒の活動を外部へ発信していく。	A		専門家や専門学校の出張授業を活用し、直接指導を受けることで、高度な技術を身につけることができた。今後もプロフェッショナルの講師の授業を積極的に取り入れ、外部へ発信していく。
情報	新学習指導要領に沿ってプログラミング・モデル化とシミュレーションといった基本的な情報技術を身につけさせながら、コンテンツの制作・発信の基礎となる情報デザイン能力を育てる。合わせて、情報社会と人間との関わりについて考えさ	アルゴリズムとプログラムの意味を理解させるために、アルゴリズムやフローチャートの表記に興味関心を持たせる。「Python」を用いて、基本構造のプログラムを作成しながら、プログラミングスキルを習得させる。	A		「アルゴマジック」「Scratch」を使って、アルゴリズムとプログラムの仕組みを理解させることができた。共通テストの必須教科となるので、テスト対策が今後の課題となる。総務省や法務省が提供している教材を使いながら、SNS利用のメリッ

情報	ながら、新しい情報社会に対応するためのルールと情報モラルを理解する。	SNSなどネットトラブルに巻き込まれないための知識が身につくように、事例動画を活用して情報モラル指導を徹底する。	A	A	ト・デメリットを認識させる授業ができた。反面、他人事のような意識でいる生徒がまだ多いので、自身の問題として意識させることが今後の課題である。
看護	看護の体系的・系統的な理解と関連した技術を習得し確かな学力の育成をする	<p>基礎的な看護技術の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放課後の実習室利用率を60%以上に維持 ・主要基礎技術の確認試験の合格率を100% <p>基礎的な看護知識の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科目試験を再試験により合格する ・低学年より国家試験合格への意識づけ(国家試験問題集の朝学習の利用) 	A	A	放課後の実技練習は57%でありコロナ禍で実習室の利用ができなかったことを考慮すると活用できていたと考えられる。そのため確認試験は100%の合格であり看護技術の定着が図れたと思われる。今後も自己学習の場としても放課後の実習室を活用していく。放課後の実習担当教員が入れない日も多くあるため、日程を精選しベットの稼働率をあげ効果的、効率的な活用が必要である。また知識の定着についてはICTを活用したアプリの導入を検討する。
礼法	小笠原流礼法を通して、家庭や学校、地域など社会との関わりを円滑に出来る生徒を育成する。また、一人の女性として自立するために大切な立ち居振る舞いを習得させる。	小笠原流礼法を通して、家庭や学校、地域など社会との関わりを円滑に出来る生徒を育成する。また、一人の女性として自立するために大切な立ち居振る舞いを習得させる。	A	A	夏休みに教員研修を行なった。今後も定期的に研修を行い、職員間の意識向上を図る。礼法の教科書を読み、動作等について復習し、常に家庭科教員の意識向上を図っている。今後も、指導方法について情報交換を行い、生徒自身に礼法の基本を理解させられるよう、授業内容について充実を図っていく。
キャリアデザイン	ⅡB各フィールドにおける次年度からの本格的な探究型プログラム実施に向けて、監修団体等の指導のもと、地域など実社会との連携を大切に探究型プログラムの詳細を決定する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 週1回のキャリアデザイン研修時間を確保し、科目、フィールドごとに全員で検討を行う。 2. 地域や外部団体の活動について、積極的に調査、研究を行う。 3. これまで以上に監修団体等との連携を密にする。 	A	A	ⅡB各フィールドにおける本格的な探究型プログラムを実施しつつ、随時、監修団体等の指導のもと改善を図ることが必要である。
	入試システムの変更に適切に対応し、キャリアで学習したことを進路決定に活かせるよう、担任・学年へのフィードバックを行うとともに、生徒自身が適切に表現できるよう、サポートを徹底する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 総合型選抜、学校推薦型選抜に向けて、進路指導部と連携し、教科担当全員でフォローを行う。 2. キャリアデザイン科内で進路指導に関する研修を行う。 	A		総合型選抜、学校推薦型選抜での受験に向けて、キャリアデザインⅡBを中心に、学んだことを自分自身の言葉でプレゼンテーションできるようにすることが必要。入試時期に合わせた授業内での発表会の実施などが考えられる。